

水 稻 新 品 種 「 岩 手 34 号 」 の 特 性

扇 良明・佐々木 力¹⁾・木内 豊²⁾・新田 政司・石川 洋¹⁾・上野 剛³⁾・小田中浩哉²⁾・
畠山 均・中野 央子・竹澤 利和⁴⁾・高橋 和彦⁴⁾・多田 徹⁵⁾・高橋 政夫

(岩手県立農業試験場・¹⁾岩手県立農業短期大学校・²⁾岩手県立農業試験場県南分場・
³⁾岩手県農産物改良種苗センター・⁴⁾岩手県立農業試験場県北分場・⁵⁾岩手県生物工学研究所)

Characteristics of a New Rice Variety "Iwate 34"

Yoshiaki OHGI, Tsutomu SASAKI¹⁾, Yutaka KIUCHI²⁾, Masashi NITTA, Hiroshi ISHIKAWA¹⁾,
Tsuyoshi UWANO³⁾, Hiroya ODANAKA²⁾, Hitoshi HATAKEYAMA, Hiroko NAKANO,
Toshikazu TAKESAWA⁴⁾, Kazuhiko TAKAHASHI⁴⁾, Toru TADA⁵⁾ and Masao TAKAHASHI

(Iwate Prefectural Agricultural Experiment Station・¹⁾Iwate Agricultural Junior College・
²⁾Kennan Branch, Iwate Pref. Agric. Exp. Stn.・³⁾Iwate Seed and Seedling Center, Inc.・
⁴⁾Kenpoku Branch, Iwate Pref. Agric. Exp. Stn.・⁵⁾Iwate Biotechnology Institute)

1 は じ め に

昭和50年代, 岩手県中北部の中山間地帯及び北部沿岸地帯には「ハヤニシキ」が主要品種として作付されてきた。しかし, 耐冷性や耐倒伏性・品質等の点で問題があり, 「ハヤニシキ」クラスの早生の早熟期で栽培特性の優れた品種の育成が強く要望されていた。一方, 近年の米穀情勢において良食味米が重要視されており, 県中北部においても良食味米の安定生産が課題となっている。

このようななかで, 「岩手34号」が有望と認められ, 平成4年度に岩手県の奨励品種に採用されたので, その育成経過と特性の概要について報告する。

2 来歴及び育成経過

「岩手34号」は早生の耐冷・良食味品種の育成を目標と

表1 生産力検定試験 (育成地 1989~1992年4か年平均)

施 肥 水 準	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/m ²)	精玄米重 (kg/a)	同 左 標準比	玄 米 千粒重 (g)	品 質
標 肥	岩 手 34 号	8. 4	9.20	74.6	16.2	521	62.3	101	22.4	4.8
	たかねみのり	8.11	9.30	77.0	17.5	484	61.6	(100)	21.7	4.8
多 肥	岩 手 34 号	8. 5	9.23	72.9	16.6	564	63.5	102	22.9	6.0
	たかねみのり	8.11	10. 3	76.1	18.1	527	62.4	(100)	22.1	4.3

3 特 性

「岩手34号」は出穂期が「ハヤニシキ」並かやや早く成熟期は「ハヤニシキ」並で, 育成地では早生の早である。稈長は「たかねみのり」並かやや短めの中短稈, 穂長は「たかねみのり」より短く, 穂数は「たかねみのり」並かやや多い偏穂数型の梗種である。

収量性は「たかねみのり」並, 玄米の形状は中粒で「たかねみのり」よりやや大きく, 粒厚は厚く, 玄米千粒重は

して, 1984年岩手県立農業試験場において, 「コチミノリ」を母とし「庄内32号」(後の「はなの舞」)を父として人工交配を行った雑種の後代である。1985年に温室でF₁及びF₂を養成し, 1986年にF₃世代で個体選抜, 以降系統栽培により選抜・固定を図ってきたものである。1988年F₅世代から生産力検定試験と各種の特性検定試験を行いその結果有望と認められたので, 1991年F₈世代から「岩手34号」の系統名で奨励品種決定調査等に供試してきた。1993年はF₁₀世代である。

なお, 「岩手34号」は1984年から開始の「農業先端技術応用化推進事業」(県単)で行われた最初の交配組合せのなかから選抜されたものであり, 1990年からの「いわてオリジナル水稻品種開発事業」(県単)によって育成された最初の品種である。

「たかねみのり」より重い。品質は「たかねみのり」並の良質であるが, 粒着密度が中~やや密で二次枝梗の着粒割合が高く, 多肥条件下では登熟が遅れ品質が劣る傾向にあり注意が必要である(表1)。

玄米の搗精時間は「たかねみのり」並であるが, 搗精歩留まりが高く精米白度が高い。

成熟期の草姿は止葉がやや立ち, 穂揃いが良く, 熟色はやや淡く良好である。稈はやや細いが稈質はやや剛で, 耐倒伏性は「たかねみのり」並のやや強である。

表2 特性調査(育成地)

品 種 名	草 型	稈		止葉の 直立性	粒着密度	熟 色	耐 倒 伏 性	いもち病抵抗性			障害型 耐冷性
		細 太	剛 柔					真 性	葉	穂	
岩 手 34 号	偏穂数型	やや細	やや剛	やや立	中～やや密	良	やや強	Pi-i	やや強	やや強	強
たかねみのり	偏穂数型	中	中	やや垂	中	やや良	やや強	Pi-i	強	強	強

表3 食味官能試験(育成地)

試験年月日	参加人数	品種名	外観	香り	味	粘り	硬さ	総合評価	基準品種
1990. 2. 1	9	岩 手 34 号	0.2	0.0	0.1	0.7	0.2	0.4	たかねみのり
1990. 11. 26	18	岩 手 34 号	0.89*	0.28	0.33	0.67*	0.56	0.44	たかねみのり
		あきたこまち	1.00*	0.28	0.83*	0.56	-0.17	0.78*	
1990. 12. 5	20	岩 手 34 号	-0.05	-0.20	0.10	-0.05	0.55*	0.10	あきたこまち
1990. 12. 11	20	岩 手 34 号	0.25	0.10	0.05	0.05	0.50	0.15	あきたこまち
1991. 11. 27	30	岩 手 34 号	-0.13	-0.13	-0.17	-0.03	0.53*	-0.17	あきたこまち
1991. 12. 5	29	岩 手 34 号	-0.03	-0.07	-0.10	-0.31*	0.31*	-0.10	チヨホナミ
		あきたこまち	-0.14	-0.10	0.10	0.17	-0.21	0.03	
1991. 12. 24	20	岩 手 34 号	0.75*	0.10	0.25	0.35	-0.25	0.55*	たかねみのり
		あきたこまち	0.20	0.05	0.10	0.00	0.20	0.05	
1992. 12. 7	13	岩 手 34 号	0.92*	0.23	0.15	-0.23	0.07	0.46	あきたこまち
1992. 12. 10	28	岩 手 34 号	0.57*	0.25	0.54*	0.50*	-0.18	0.54*	たかねみのり
		あきたこまち	0.57*	0.18	0.21	0.64*	-0.21	0.54*	
1993. 1. 8	26	岩 手 34 号	-0.04	0.08	-0.04	0.31	-0.08	0.19	あきたこまち
		たかねみのり	-0.69*	-0.19	-0.31*	-0.39*	0.23	-0.69*	

注. *: 危険率5%で有意差あり

いもち病真性抵抗性遺伝子型はPi-iと推定され、圃場抵抗性は葉いもち、穂いもちともにやや強である。「たかねみのり」とくらべると「岩手34号」は1ランク弱いので発生動向に注意し、適期防除に努める必要がある。

障害型耐冷性は「ハヤニシキ」より明らかに強く「たかねみのり」、「コチミノリ」並の強である(表2)。

食味の評価については外観と粘りの項目で優れ、総合評価は「たかねみのり」よりは明らかに優り、「あきたこまち」との比較でも同等の評価が得られた。この熟期の品種としては高水準の良食味品種といえる(表3)。

4 普及地帯等

新品種「岩手34号」は「ハヤニシキ」並の熟期で「たかねみのり」に優る「あきたこまち」並の食味を持ち、「たかねみのり」並の品質、耐冷性を備えている。

岩手県中北部の標高が概ね250～350mの地帯及び沿岸北部のやませ地帯の約5,000haに、良食味、耐冷、良質品種としての普及が見込まれ、県中北部産米の食味、品質向上と作柄安定が期待される。